



阿佐ヶ谷教会



# 信友会 会報

6月例会(6月23日開催)報告

「使徒言行録の学び」(第10回) 加藤 真衣子 牧師

—新約聖書 使徒言行録 第10章—

暑い日々が続く毎日です。それに加え、異常気象というものなのか突然の豪雨や雷で不安になる日も度々です。温度変化の激しい日々、どうぞ食事と睡眠をしっかり取って体調管理を心がけましょう。また、いよいよ今年の修養会も近づいてきました。ぜひご出席ください！

## 「聖霊行伝をたどる—使徒言行録の学び」—第10章—

「伝道～私自身が変わられることへ～」

加藤 真衣子 牧師

### ヤッファからカイサリアへ

学び続けている使徒言行録ですが、今日の箇所では二つの町の名前が登場しました。ヤッファとカイサリアです。この二つの町は直線で約50キロ位、当時の交通手段でも1日で着けるほどの距離にありました(聖書巻末の地図参照)。

しかし二つの町の精神的隔たりは大きいものがあつたようです。それはそれぞれの町の歴史を紐解くと分かります。

ヤッファはとても古い町で、地中海に面した港町です。ソロモンの神殿建設に使われたレバノン杉はこの港から運び込まれました。ヨナ書では、ヨナがアッシリアの港ニネベに行けと言われて反対方向に逃げましたが、その時この港から船出しました。また、ヤッファの近くには現在のイスラエルの中心都市テルアビブがあります。イスラエルの人たちにとって親しみのある港町です。(次ページへ)

## ★ 信友会 2013 年度修養会★ 8月9日(金)14:30より10日(土)17:00まで

教会標語「あなたがたの光を人々の前に輝かしなさい」(マタイ5・16) 修養会テーマ:「世の光」

### 主なプログラム:

会場: ナザレ修女会・エピファニー館

一日目: 14:30 受付開始

二日目: 6:50 起床

オリエンテーション後、礼拝堂にて開会礼拝

7:20 礼拝堂にて ミサ・聖餐式 休憩後朝食

17:00 集会室に移り近況報告など懇談

9:00 グループに分かれ、今回のテーマで分科会

18:00 夕食後 基調講演:大村米主任牧師

12:00 昼食後、合唱練習

自由時間(談話室にて懇談)

15:35 総括と開会礼拝

22:00 消灯

17:00 解散

部分参加も可能です。修養会役員(荻原、寺嶋、日高)あてに参加申し込みをしてください。



(前ページより)

一方、カイサリアは新しい町で、ここに立派な港を築いて大きな町にしたのは、クリスマスに登場するヘロデ王でした。ヘロデはローマ帝国を後ろ盾とすることで権力を維持し、「カイサリア（カイザル＝皇帝）」と名付けたのです。やがてこの町がローマによるユダヤ支配の要の町となりました。

つまり、二つの町の精神的隔たりとは「ユダヤ人と異邦人の間の隔たり」です。その隔たりを超えて、ヤッファにいたペトロがカイサリアに行って伝道したことは、新しい踏み出しでした。

### 幻によって

ペトロとコルネリウスがそれぞれ幻を見たというのは、神さまからの示しを与えられたということですが。ペトロが見た幻は、天が開き「大きな布のような入れ物」が降りてきて、その中に「あらゆる獣、地を這うもの、空の鳥」が入っていました。これらは旧約聖書の食事規定で汚れたものとされていました。それを食べなさいと言われるのですが、ペトロは拒否します。それに対して「神が清めた物を、清くないなどと、あなたは言うてはならない。」との声がありました。ペトロは3度この幻を見て、「神は何を語ろうとしておられるのか?」と思っていたところに、コルネリウスの使いが到着しました。そして「一緒に出発せよ」との霊による示しがあったのです。

幻の意味は布の中の汚れた動物は異邦人を意味し、神が彼らを清めたのだから、あなたが清くないと云ってはダメだということです。そして伝道が進められていきました。ユダヤ人と異邦人との隔たりが、神ご自身の働きかけにより乗り越えられました。まさに伝道は神のみざわなのです。私たちに「これは絶対だ」と大切に守っているものがあります。それは神を礼拝することや、神の御言葉に聴き従うことです。それ以外は相対的な事柄です。「絶対的なものには絶対的に、相対的なものには相対的に」関わりたいものです。相対的な事柄に捕らわれすぎると、教会は疲弊してしまうかもしれません。



### アニステーミ

さて、人の隔たりを超えさせる神のみざわについて、ひとつの言葉から見てみましょう。13節（身を起こし）、20節（立って）、23節（立ち）に繰り返されるアニステーミという言葉は、復活用語です。ルカ文書ではルカ24:7や、ルカ24:46などに登場します。この時ペトロはまだ知らずにいるけれど、人の限界を超えた新しいこと、すなわち神のみわざとしての伝道が始まろうとしているのです。

そしてこの伝道に関して大切なことは、伝えられる者より、伝える者の方が変えられるということです。ペトロは幻の中で汚れたものを食べることを3度断りました。神により変えられることを拒み、今の自分のままでしようとしたのです。しかし神はペトロに働きかけることをやめませんでした。そしてペトロはこれを受け容れることを決断したのです。

伝道は人を神に従う者へと変えることではなく、むしろ自分が神に従う者へと造り変えられることを通して、福音は伝えられていきます。だから福音は押し付けてもよくないし、「あの人にはどうせ伝わらない」と思い込むのもよくないのです。また「伝道なんて私にはとても無理・・・」としり込みするもの外れです。伝道は自己主張でなく、神への服従なのです。



中央左から司会の丸山兄、講演中の加糖牧師、萩原信友会長

## 交わり

25節ではコルネリウスがペトロを拜んだとあります。それに対してペトロは「わたしもただの人間です」と言って、止めさせました。口語訳聖書では「私も同じ人間です」と訳されました。ペトロはこれまでの異邦人への想いを併かれて「異邦人であるあなたと、私は、同じ人間です」と言い、ここに交わりが出来ていきました。そして彼らは33節で「主があなたにお命じになったことを残らず聞こうとして、神の前にいるのです」とあるように、共に礼拝する交わりが生まれました。人と人の対立や隔たり、違いなどを乗り越える真の交わりは、礼拝によって実現される姿が、ここにあります。

## 言葉は出来事となる

コルネリウスの使いたちはペトロに言いました。22節「(前略)あなたを家に招いて話を聞くようにと、聖なる天使からお告げを受けたのです。」

この「話」は、どんな内容の話でしょうか。「話」という言葉は「レーマ」というギリシャ語です。34節以下でペトロは彼らに福音を告げるのですが、37節「神がイエス・キリストによって平和を告げ知らせ、イスラエルの子らに送ってくださった御言葉をあなたがたはご存じでしょう。ヨハネが洗礼を宣べ伝えた後に、ガリラヤから始まってユダヤ全土に起きた出来事です。つまり、ナザレのイエスのことです。」

この「出来事」が「レーマ」です。つまりナザレのイエスこそ、神が送って下さった御言葉(ロゴス)であり、その御言葉は出来事となるのです。私たちの救いを実現する具体的な出来事です。御言葉はまずユダヤ人に送られましたが、ユダヤ人たちは主イエスを木にかけて殺してしまいました。しかし父なる神が主イエスを復活させ、弟子たちの前に現し、彼らを主の復活の証人として立てました。42節「そしてイエスは、御自分が生きている者と死んだ者との審判者として神から定められた者であることを、民に宣べ伝え、力強く証しするようにと、わたしたちにお命じになりました。」生と死を貫くご支配を人々に証しすることを命じられた証人たちによって、福音は告げられていきます。ペトロ自身「この主こそが、全ての人の主だ」と知らされました。

そしてペトロは聖書の読み方も変わりました。私たちが聖書の言葉に、それまで思ってもみないことを知らされ、喜びを与えられ、御言葉によって新しく造り変えられます。

### 信友会 2013 年度 第 3 回 例会・役員会記録

日 時：2013 年 6 月 23 日 12:30 ～ 14:30 (例会後役員会)～15:00

場 所：教会ホール (例会出席 31 名)

#### 1. 5 月例会

- (1) 加藤真衣子先生に使徒言行録 10 章の聖書講解をしていただいた。この 10 章は「異邦人伝道」という重要なテーマの箇所です。「ユダヤ人と異邦人」をめぐって活発な話し合いを行った。
- (2) 会員消息
- (3) 6 月誕生月を迎えた会員を祝った。
- (4) 石巻ボランティアに出発する藤本 兄からの報告
- (5) 6 月 30 日予定のシルバー会の紹介・案内
- (6) 信友会報発行 (Vol.65-No.3) 6 月 23 日配布済み

#### 2. 役員会

- (1) 例会後同ホールにて役員会を実施。出席 9 名
- (2) 信友会修養会について
  - ・実行委員会で進め方を早く検討し、提案すること
  - ・基調講演の抄録をあらかじめ作成してもらうよう大村牧師に依頼する
  - ・開会礼拝は加藤真衣子牧師に依頼し、受諾いただいた。(当日大島から三鷹へ直行)
  - ・支援を必要とする出席者の支援体制を整える。
- (3) 対外援助費の支援先検討中。次回例会にはかかる。
- (4) 7 月例会：2013 年 7 月 28 日 (日) 礼拝後教会ホール  
テーマ：「震災ボランティア報告と信友会の取組み」  
使徒言行録の聖書講解は休みとし会員懇談と食事の会とする  
司会 日高好男兄、食事担当 小野淳二兄

以 上

(記録：萩原雄二、玉澤武之、写真：小笠原教久、会報レイアウト：小野淳二)

#### パウロのユーモア

打方真樹

\*わたしと使徒言行録\*

使徒言行録 26 章 29 節

パウロは言った。「短い時間であろうと長い時間であろうと、王ばかりでなく、今日この話を聞いてくださるすべての方が、私のようになってくださることを神に祈ります。このように鎖につながれることは別ですが。」

洗礼を受ける前にとりあえず聖書を一通り読んでいた時、この箇所に刮目しました。逮捕されてパレスチナの領主アグリッパ王の前に引き出されたパウロはキリストを証して熱弁をふるい、王に「短い時間でわたしを説き伏せて、キリスト信者にしてしまうつもりか。」と言わしめ、上掲のように答えました。

ユーモアやエスプリは使い所によって鋭い武器になるもので、「このように鎖につながれることは別ですが」は「不当逮捕ハンタイ！」と叫ぶより相当な説得力があります。コリント書においても一言付け加えねば済まないパウロの性分がうかがえますが、一見謹厳な意地悪爺さんのイメージの向こうに、深刻な問題を愛によって解きほぐすパウロのユーモアが感じられます。

「フィレモンへの手紙」でパウロは、逃亡奴隷オネシモを元の主人フィレモンの元に円満に返すために、表から裏からフィレモンに恩に着せ、ついではばかりに（あつかましく）自分の用事をいつつけてしまいます。別件を並立させて核心をごまかす巧い手口であると思いました。こういうのは仕事でも参考になります。

ユーモアという観点からパウロを読み解いた本を読んでみたいものです。